

全日制府立高等学校特色作り・再編整備 第1期実施計画・第3年次実施対象校

平成13年11月16日
大阪府教育委員会

1 第2学区統廃合計画分

学区	所在地		対象校	新校 募集開始	既存校 募集停止	仕様校地
第2学区	高槻市	全日制 単位制 (普通科)	島上高校	平成15 年度入学 制募集時	平成15 年度入学 制募集時	現島上高 校校地
			高槻南高 校		平成15 年度入学 制募集時	

2 第8学区統廃合計画分

堺市	普通科総合選択制	上神谷高校と美木多高校	平成15年度入学生
	存続校地	美木多高校校地	

その他の特色づくり

第1学区	豊中市	豊島高校を、平成15年度入学時より普通科総合選択制
第5学区	八尾市	八尾北高校を、平成15年度入学時より総合学科
第6学区	大阪市西成区	西成高校を、平成15年度入学時より普通科総合 選択制
	大阪市住之江区	港南高校を、平成15年度入学時より専門高校

大阪府立高槻南高等学校統廃合案について の府教委説明公式資料（2001年8月）

平成13年8月30日計画案の公表

平成13年11月16日 大阪府府教育委員会議で正式決定

1 全日制府立高等学校の特色づくり・再編整備

急激に進む生徒減少

大阪府内公立中学校卒業生数

- ・昭和62年3月がピークで、約14万8千人
- ・平成13年3月の卒業生数は約8万人にまで減少（ピーク時の54.3%）
- ・平成20年には、7万人程度にまで減少する見込み

高槻市内公立中学校卒業生数

- ・ピーク時は、約6千6百人
- ・平成13年3月の卒業生数は約3千4百人（ピーク時の50.8%、府全体の減少率を上回って減少）

府立高等学校の特色づくり・再編整備

- ・社会の変化に対応する人材の育成
- ・生徒の学習ニーズに応え、多様な進路の選択肢を提供

第1期実施計画

学区ごとの生徒減少状況を踏まえ、統合整備と改編により、特色づくりを進めます。

2 第3年次実施対象校（案）（平成13年8月30日公表）

生徒減少が進む高槻市域で、統合による特色づくりを行う

3 統合整備の考え方

統合整備は、高槻南高校も島上高校も廃校にするものではありません。両校の伝統、教育実践を持ち寄って新校

(全日制単位制高校普通科)をつくります。

- ・統合により、より良い学校をつくるためには、対象とする学校で、新しい学校の特色づくりに発展できる取組みが行なわれていること、取組みを進めていく活力が期待できることが重要です。
- ・高槻市内7校の府立高校の特色づくりに対する取組み状況を検討し、次の3校が相応しいと判断しました。

島上高校：総合的な学習の時間や福祉などの体験学習を実施。多くの選択科目を取り入れ、生徒一人ひとりの意欲を引き出すきめ細かな指導に取り組んでいる。単位制に向けた検討もすすめている。

高槻南高校：国際理解教育を推進するとともに、わかる授業の実践を通して、生徒一人ひとりの学力の向上と個性の伸長を図り、進路実現の力を身につける指導の充実に取り組んでいる。

阿武野高校：選択科目を多く実施し、生徒の興味・関心、進路希望に応じてきめ細かな学習指導を行なっている。国際交流や地域の養護学校、作業所との交流授業や介護実習を実施している。

その上で、両校のプラス面を共に発展させる「統合」という方式をとるため、できるだけ接近していることが重要であることなどを判断しました。

その結果、島上高校と高槻南高校を対象校とすることで主体的に学習する姿勢や創造的な個性、進路実現の力を育て、国際社会でも活躍できるなど、多様な能力をもった地域の人材を育てる新しいタイプの普通科の全日制単位制高校を設置できると判断したものです。

4 教育内容等の受け継ぎ

新校の教育内容、教育課程等はプロジェクトチームで検討

- ・高槻南高校と島上高校それぞれの、校長・教頭・事務長・教員3名及び府教育委員会関係課員が参加するプロジェクトチームで、新しい学校の教育課程や開設科目、学校行事、部活動等について検討していきます。
- ・高槻南高校でこれまで取り組んできた教育活動の成果を、さらに発展させながら、確実に受け継いでいきます。
- ・検討状況については中間まとめ等で適宜発表し、さまざまなご意見をいただきます。

全日制単位制高校

- ・今回できる単位制は全日制の「普通科」です。毎日6時間の授業、3年間での卒業などは、学年制の高校と変わりありません。学校行事、ホームルーム活動、部活動や生徒会活動なども、実施していきます。
- ・単位制高校では、国語、数学などの必修科目はもちろん、多くの選択科目が用意されます。生徒は自分の興味・関心、能力・適性、将来の在り方などさまざまな進路意識に基づき、主体的に自分のニーズに適した教科・科目を選択して学習することにより、「個性を伸ばす」「主体性を育てる」「進路希望を達成し易くする」などのメリットがあります。
- ・学年制では、学年ごとに学習する科目が指定されており、生徒が主体的に科目選択をする余地がありません。単位制高校では、年次毎に学習するよう指定される科目の取決めが緩やかで、生徒は自分の主体性を生かしながら、多くの科目選択をすることができます。

5 地元中学校卒業者の就学対策

- ・統合整備の結果、高槻市内の府立高校は6校となります。カミ府立高校の募集人員は、中学校卒業見込み者数を基に通学区域内の府立高校の受入れ割合がこれまでと大きく変化することのないよう決定していますので、高槻市の中学生にとって府立高校への入学力難しくなることはありません。
 - ・高槻市域の北部に4校、南部に2校になりますが、現在の市内7校の府立高校への市内中学生の進路状況をみると、北部の「芥川高校」、南部の「大冠高校」は9割以上がそれぞれの地域から生徒が通学しています。
 - ・北部に位置している「三島高槻」は広く高槻市内全域から、「高槻北高校」「阿武野高校」については、約3割の生徒が南部から通学しています。
 - ・南部に位置する「島上高校」には約3割、「高槻南高校」に約2割の生徒が北部から通学しています。
- このような、北部から南部へ、南部から北部への通学実態を踏まえると、統合により、校地校舎を使わない学校を北部または南部のどちらにしても南北いずれかへの生徒の進学シフトは生じますが、周辺の6ないし7学級の学校において増学級を行うなどにより、高槻市内中学生の就学対策に万全を期します。